地方創生 第33回

第2期羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略

羽幌町役場地域振興課

はじめに

羽幌町は、北海道北西部留萌管内のほぼ中央に位置し、南は苫前町、北は初山別村及び遠別町、東は幌加内町に接しています。東は天塩山系ピッシリ山を背後として、西は日本海に面し、沖合い24kmには暑寒別天売焼尻国定公園に指定されている２つの島、羊と緑と原生林の島「焼尻島」と世界でも珍しい人と海鳥が共生する島「天売島」を有しています。

町の基幹産業は漁業と農業で、漁業では、日本海北部最大にして最高の漁場で獲れた甘えびが自慢のほか、タコやなまこ、ホタテなども浜を賑わせています。農業では、食味ランキング「特Ａ」の評価を誇る「ななつぼし」など日本最北端で栽培されたうるち米をはじめ、グリーンアスパラや長いもなどの農産物が多く生産されています。他にも焼尻島でミネラル豊富な牧草や外敵のいないストレスフリーの環境で育ったサフォーク種の良質な羊肉など、大自然が育んだ豊かな恵みが大きな魅力となっています。

羽幌町の人口の推移

本町の人口は、昭和40年の30,266人（国勢調査）をピークに6,548人（令和２年国勢調査）まで減少しており、住民基本台帳における令和５年12月末現在の人口は6,135人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した今後の人口推計によると、2040（令和22）年に4,038人、2050（令和32）年には3,088人になるとされており、高齢化率は49.8％と２人に１人が高齢者であるとされています。

人口の減少は、死亡者数が出生数を上回る「自然減」と、高校進学や都市部への就職、地元経済の悪化に伴う就職先の減少などによる若者、生産年齢人口の町外流出（＝「社会減」）が原因と考えられています。

羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

国は令和元年12月に第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略を閣議決定し、令和２年度から５年間の目標や施策の方向性等を定め、地方創生のうごきを更に加速させていく方針を示しました。その中で地方においても地方創生の充実・強化に向け、切れ目のない取組を進めることが求められました。

本町においても、人口減少の抑制と地域経済の縮小に歯止めをかけるため、平成27年度に「羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、産業の振興や人材の確保をはじめとした住みよい環境づくりを進めてきました。その計画期間が令和元年度で終了したことから、国の基本目標や北海道の取組の方向性を踏まえ、令和２年度から令和６年度までの５年間を計画期間とする「第２期羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。第１期総合戦略で根付いた地方創生の意識や取組を継続しつつ、引き続き人口減少の克服と持続可能な地域づくりを実現するための取組を進めています。

羽幌町総合振興計画との関係

本町の将来を見据えた基本理念、基本目標を明らかにし、その実現に向けた方策、手段及び総合的な指針を示すのが「羽幌町総合振興計画」です。

羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、羽幌町総合振興計画を踏まえつつ、人口減少に対応するための具体的・重点的な施策をとりまとめたものです。

具体別総合戦略

【基本目標No.１】　活発な産業づくりにより元気なまちを創生する

本町の基幹産業である農業と漁業を基本に、産業団体や企業など様々な方々が連携し、生産性向上に向けた優れた地場産品の有効活用に必要な環境整備、魅力ある産業の構築に向けた６次産業化による販売力の強化などの支援に重点的に取り組んでいきます。

また、創業や新製品開発への支援等、早急に必要となる人材を企業等の連携により求職者と求人情報等のマッチングを図り、就労支援に取り組みます。

⑴ 新たな取組に挑む事業者等を地域で支える環境をつくります。
⑵ 地域資源の発掘や有効活用による魅力ある産業をつくります。
⑶ 企業等の活力を増進し新たな雇用をつくります。

【基本目標No.２】　多くの人が集い魅力を感じられるまちを創生する

本町への就業や結婚に伴う住宅不足、また、労働者の確保や移住者の受入に対する住環境整備は、重点課題であることから、既存資源である空き家の有効活用や公共施設解体敷地の宅地活用、更には、民間の活力を利用した賃貸住宅の建設を促進するなど、定住に係る基盤整備に努めます。

また、豊富な地域資源を生かし、本町の魅力を更に磨き上げ、戦略的で効果的なＰＲ活動により交流人口や関係人口の創出・拡大と都市圏からの移住定住を積極的に促進します。

⑴ 移住希望者等を受け入れる体制と住みよい環境をつくります。
⑵ 観光資源や地域資源を生かし交流人口や関係人口を創出・拡大します。

【基本目標No.３】　子育てのしやすい優しいまちを創生する

日本国内における離婚率上昇を受け、増加するシングルマザーが求める子育てしやすい居住環境を整備し、本町への移住定住のための受け皿づくりを推進します。また、子育て世代や移住者が求める、妊娠、出産、子育ての全ての場面における相談支援体制の充実を図るとともに、活動拠点の整備に努めます。

⑴ 子育て世代の過ごしやすい環境をつくります。

【基本目標No.４】　住み続けたいと思うまちを創生する

少子化に伴い生徒数が減少する地元高等学校の魅力化を図ることにより、地元をはじめ近隣町村からの通学者の増加を図ることで､本町への愛着や誇りを高め、地元への就職及びＵターンへのきっかけづくりとするものであります。また、本町の将来を担うまちづくり人材や地域医療を支える人材の確保と育成をすることにより地域活動及び地域医療・福祉の充実を図るとともに、公共施設の適切な保有や管理等を図ることで、人的・物的両面において豊かで住みやすいまちづくりを推進します。

⑴ 地元及び他地域の子どもたちが本町の高等学校への進学を目指す環境を創出します。
⑵ 住み心地のよい環境を創出します。

取組事例①
地元高校への進学者確保
【北海道羽幌高等学校への支援】

北海道羽幌高等学校（以下「羽幌高校」）は町内にある公立（道立）高等学校です。生徒数は現在149名で近隣の町村から通学する生徒もいるなど留萌管内中

部地域の教育基点となっています。

羽幌高校に対しては「魅力ある学校づくり」と「生徒支援」の２つの側面に対する補助を行っており、学校の存続・入学者数の増加・２間口の維持を目指しています。

「魅力ある学校づくり」では、生徒の体育・文化・教育活動の援助を行っており、具体的には部活動の遠征費及び運営費、将来に有益な資格取得に係る費用、進路指導・学力向上に向けた講習に係る費用の補助などを行い、学校全体の魅力向上に努めています。

「生徒支援」については、学校入学者に対する入学準備金の支給、町外に在住する生徒のバス通学定期券の全額補助などを行い、生徒の負担軽減を図っています。

また、羽幌町国際交流事業の一環として韓国素明女子高等学校との親善交流が行われており、隔年で韓国への訪問と羽幌町への受入れを実施しています。授業や学校活動、相互の郷土芸能等を通じ理解を深めており、韓国への訪問の際には、ホームステイ等による生活文化についての交流も行われています。

羽幌高校外観

韓国素明女子高等学校との交流の様子

本町の過疎化が進み、子どもたちの人口が減少する中、羽幌高校の存続を一番の目標に上記の支援や活動を行っています。今後も町の子どもたちの未来のために教育環境の保全・推進について取り組んでいきたいと考えています。

【北海道天売高等学校の活性化】

羽幌町立北海道天売高等学校（以下「天売高校」）は北海道の離島で唯一の町立夜間定時制課程普通科の高等学校です。生徒数は現在16名。島の子どもの人数が減少する中、天売高校の存続及び天売島で「働きながら、成長する経験を」という思いを実現させるべく、離島活性化交付金を活用した生徒の全国募集の実施や学生寮の設置・運営を行ったことで、現在の生徒全員が島外の中学校出身（うち道外出身者２名）となり、ほとんどの生徒が学生寮や下宿から登校しています。

天売島

天売高校は夜間定時制の学校でありながら、在校生全員が３年で卒業できる３修制であることが特色の一つです。また、天売島の基幹産業が水産業であるという地域の特性を生かし、普通科でありながら「水産実習」の科目を設定しているほか、平成26年度からは「郷土を知り、郷土を愛する心の育成」をスローガンに、土曜授業として郷土学習「天売学」を実施するなど天売島の特色を生かした天売島でしかできない教育活動を進めています。

「水産実習」では、海産物の製造法に携わり水産物の高度利用や加工の必要性、資源保護の重要性を学ぶ内容となっており、カレイ燻製（くんせい）・ウニ缶詰・タコ燻製・

スモークサーモンの４種類の実習を年間で実施しています。

水産実習の様子（ウニ缶詰）

「天売学」では、産業・自然・観光・伝統文化・未来について学んでいます。地域の民間講師による講義やフィールドワークを通じて学んだことを生かし、生徒自ら天売島の地域おこしのためのアイディアを考え島民の方々に発表しています。

保護者のもとを離れ、働きながら学び、日々の生活を送ることは、子どもたちにとってはハードルが高いと感じる方も多いかもしれませんが、ここ天売島には島民の皆さんからの温かい愛情を受け、成長することができる環境があります。自然豊かな「海鳥の楽園」天売島での教育の推進を今後も行っていきたいと考えています。

取組事例②
児童生徒の学ぶ機会の充実

子どもたちの学習や体験活動の場の充実及び拡大を図り、魅力ある学びを提供するとともに郷土愛を育む郊外活動を促進することを目的として「子ども自然教室」を実施しています。当教室は小学４年生から６年生までの児童を対象とし、参加申し込みのあった児童が月１回程度､活動しています。今年度の主な内容は、新年度の開校に併せて行うサイクリングに始まり、夏には焼尻島訪問やキャンプ等の季節に応じた体験活動、また、「ゼロカーボン」の取組の一環として、太陽光発電を利用したおもちゃ製作を行いました。

７月の焼尻島訪問では磯（いそ）遊び体験として、磯ガニ釣りを行い、子どもたちは身近にある豊かな自然を肌で感じることができました。また、島内にあるめん羊牧場では、飼育員から牧場施設や設備の説明を興味深く聞き、生き物を飼育することの大変さを感じるなど、とても有意義な時間となりました。

当教室は異学年の児童同士はもちろん、様々な方々との交流を通じて、豊かな情操や人間性を養うことができる貴重な場となっていることから、引き続き地域の方々や資源を取り込みながら、子どもたちの健やかな成長の一助となる取組を展開していきたいと考えています。

おわりに

人口の減少や少子高齢化など、本町を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、令和６年度は第２期総合戦略の最終年度となります。引き続き、人口減少対策に関係する事業を推進し、持続可能な地域づくり、未来に希望を持てるまちづくりを進めていきます。